

熊本市の小学校校歌にみる地域景観構造に関する研究

熊本大学工学部 学生会員 ○原嶋香菜子
熊本大学大学院 学生会員 力徳祥子

熊本大学政創研 正会員 田中尚人
熊本大学大学院 学生会員 岩田圭佑

1. はじめに

校歌は各学校独自で制定され、教育理念を謳っていると共に、学校の歴史や地域の風景事物を読み込んでいるものが多い。そのため、校歌に謳われる風土は、地域特性として地域の人々に共有される景観像（＝地域らしさ）を反映していると考えられる。よって校歌を分析することは地域らしさを知る手掛かりとなり、人々と意識共有しながら進めるまちづくりにおいて重要な役割を果たすと考えられる。

本研究では熊本市内にある小学校の校歌の分析を行い、各地域の特徴を掴むことで、熊本市の地域景観構造について考察することを目的とする。

2. 熊本市内の小学校区に着目した熊本市の概要

本章では熊本市にある小学校からその校区の特徴を知ることによって、熊本市の概要を掴んだ。

(1) 熊本市内の小学校の立地

熊本市は県のほぼ中央に位置し熊本平野の大部分を占めている都市である。また水源が豊富で日本一の地下水都市である。この土地条件の下、熊本市内には分校を含む公立 93 校の小学校があり、それに付随して 92 の校区がある。

(2) 各小学校区の特徴

1) 人口：熊本市は県内で最も人口の多い都市である。特に市の北東部と東部に人口が集中しており、西部では人口が少なくなっている。

2) 産業：熊本市はサービス産業中心の都市であり第 3 次産業の従事者が最も多い。特に東部の人口が集中している地域では第 2 次産業とともに従業者が多くなっている。ただ海沿いの 10 校区では半農半漁が行われており第 1 次産業が主となっている。

(3) 熊本市の小学校史

熊本市内の小学校の設立年代を熊本市の歴史と照らし合わせてみると、Ⅰ期（1872～1888 年）Ⅱ期（1889～1944 年）Ⅲ期（1945～1998 年）の 3 期に時代区分することができる。

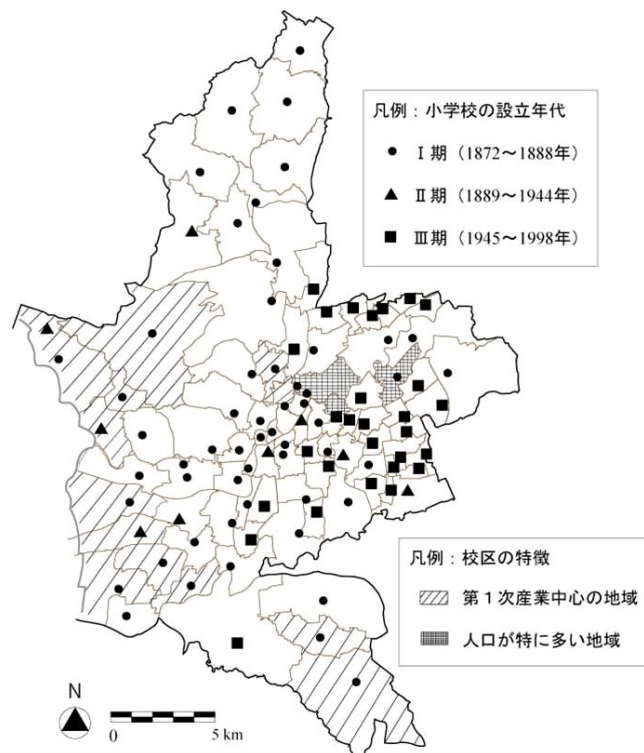


図1 熊本市内小学校校区の特徴

3. 熊本市の小学校校歌

本章では、熊本市内の小学校校歌について歌詞に着目したデータベースを構築することで、市全体の校歌の傾向を把握した。

(1) 校歌の収集方法

本研究では校歌の収集に際して、ホームページに校歌が掲載してある小学校 52 校と電話による依頼で歌詞を得られた小学校 38 校、全 90 校（校歌収集率 96%）について分析を行った。

(2) 校歌の歌詞

1) 歌詞に謳われる要素

熊本市の校歌に謳われる要素の割合を以下に示す。

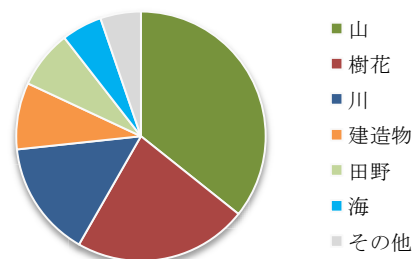


図2 謳われる要素の割合

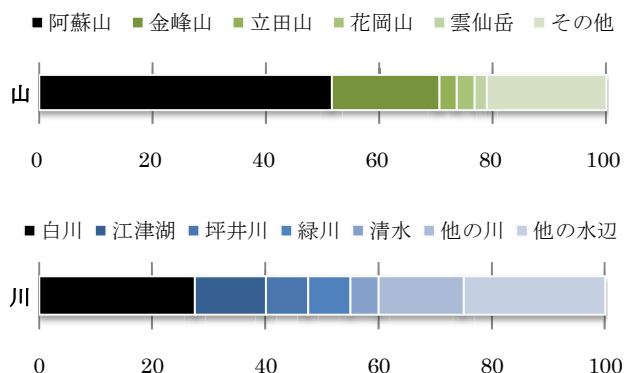


図3 謳われる自然要素の割合

熊本市の校歌には山が多く謳われていることがわかる。さらに詳しく見ると、山の中でも阿蘇山が半数以上で謳われており、市内にある山では金峰山が最も謳われている。川について見てみると、白川が最も多く謳われているが、山に見られる程の偏りはない。河川と水辺が6:4の割合で謳われており、湖や泉といった要素も謳われている。

2) 謳われる要素の位置

図2・3で示した要素について地図上に示す。

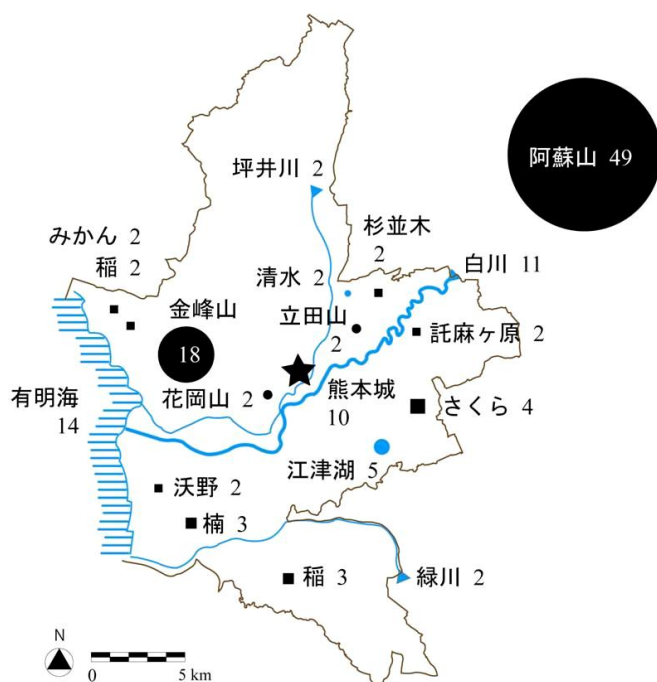


図4 校歌に謳われる要素の位置

図4より熊本市は遠景として阿蘇山があり、中・近景として金峰山を主とした地域の山々が捉えられていることが分かる。市内を流れる白川や江津湖といった水辺が土地を潤しており、有明海沿いを中心に農業風景が見られる。歴史資産として熊本城があることが分かる。また、桜や楠といった樹花も各地域で見られる。

4. 熊本市の地域景観構造の分析

本章では、3章で作成したデータベースを基に、各小学校区の地域特性と校歌に謳われた景観を比較分析し、熊本市の地域景観構造について考察した。

(1) 年代にみる校歌

2. (3) の年代に基づいて校歌の分析を行う。

校歌に川が謳われる割合を見てみると、Ⅰ期:43%, Ⅱ期:44%, Ⅲ期:13%となっており、Ⅲ期の校歌では謳われる回数が減っている。特に河川について同様の傾向が見られる。これは、1954年頃に白川で起こった水害により、河川へのマイナスイメージが強くなったことも一つの理由だと考えられる。謳われ方についてもⅠ～Ⅱ期では、水に関する表現がされているのに対し、Ⅲ期での白川は形状的な詠まれ方がされていることから、伺うことができる。

(2) 校歌にみる各地域の特徴

熊本市を大きく北・西・中央・東・南部の5つの地域に分けて校歌の分析を行う。山について見ると、北部の校歌はその地域固有の自然を謳っているものが多く、謳われる種類が他に比べ多い。また4地域で阿蘇山が謳われる割合が最も多いのに対し、西部の校歌では金峰山が謳われる割合が多くなっている。樹花については、西部・南部の海沿いの校歌で第1次産業を表す言葉が謳われている。他要素についても‘団地’といった地域の固有性を表すものが謳われていた。

(3) 熊本市の地域景観構造の分析

校歌に謳われた地域景観の特徴の変遷を追うことにより地域景観構造の変化を読み取ることができると考えている。

5. まとめ

本研究で校歌は地域の景観構造を知る上で役に立つ視点であることが分かった。今後まちづくりや郷土教育としての校歌についても検討したい。

最後に、校歌の収集に関して協力して頂いた熊本市内各小学校の先生方には深く感謝の意を表す。

【参考文献】1) 浅見雅子, 北村眞一; 校歌一心の原風景, 学文社, 1996 2) 熊本日日新聞社; 図説 熊本・わが街, 熊本日日新聞情報文化センター, 1988 3) 北原理雄, 校歌に謳われた四日市の景観構造, 日本建築学会大会東部支部研究報告, 1990 4) 熊本市; 熊本市統計書, 2010